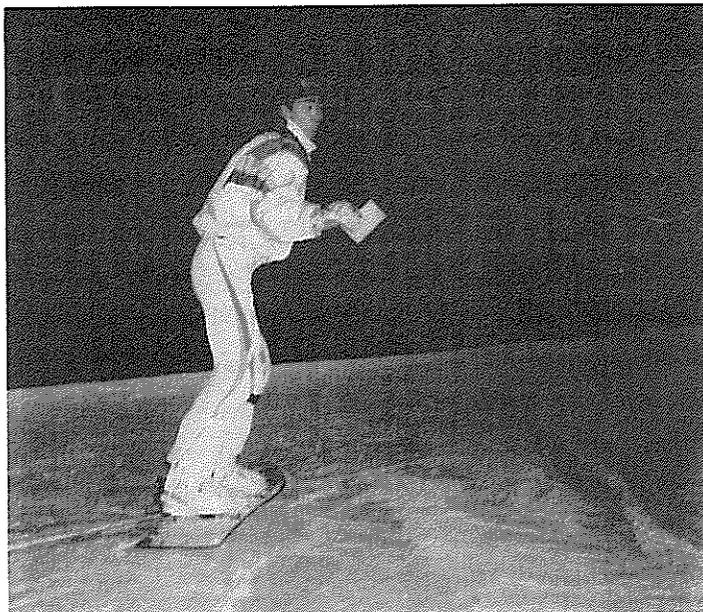


平成3年12月 No35

編集 発行  
岩手郡医師会

題字 雫石町高橋孝先生

# 岩手郡医報



スノーボードを楽しむ若者  
於 八幡平リゾートスキー場

1982年(昭和57年)当時松尾村内には古くからのスキー場として、八幡平、松川温泉、竜ヶ森の各スキー場などがあり、スキー愛好者より親しまれていた。今若者層からお年寄りまで人気のある安比高原スキー場はまだ小規模なときであった。「八幡平スキーカーニバル」として、ミスノーQueenコンテスト、自作そり大会、雪上綱引き大会などを毎年2月に開催して、多くの観光客誘致にも一役買っていた「東八幡平スキー場」は、ナイター設備も拡大し、1988年(昭和63年)にはカラーシャドウ(多彩色の陰ができる)をリフト乗り場附近にとりつけたり、コースの拡張をはかって、リフトは現在では8基(ペアリフト含む)と増え、滑走斜面が比較的緩やかな場所が多いため家族連れで賑わいを見せ、最近ではカラフルなスキーウェアを着て若者の中で流行っている「スノーボード」に最適なスロープと思われ、一般スキーヤーの間をぬってとてもバランスよく滑りおるのには感心します。ナイターの時間帯ともなれば、一般スキーヤーも少なくなり格好のスノーボーダーの世界となる。

尚、今シーズンより東八幡平スキー場は、八幡平リゾートスキー場と名称を変えて12月10日(火)オープンとなりました。(M, S記)

## 目次

八幡平リゾートスキー場.....	1	平成3年度県民健康講座カリキュラム...	9
岩手郡医師会臨時総会及び学術講演会	2~ 6	おらほの先生 雫石町 上原小児科医院の巻10	
各部会報告.....	3~ 5	随想 雫石町 高橋 孝.....	11
学術講演会 白石豊先生.....	5~ 6	受賞祝賀・懇親会.....	12
平成3年度岩手郡学校保健会研修会...	7~ 8	編集後記.....	12
新入会員紹介.....	8~ 9		

# 岩手郡医師会臨時総会及び学術講演会

日 時：平成3年11月16日（土）午後3時より  
場 所：盛岡市メトロポリタン盛岡

## 総会次第

1. 開会のことば
2. 会長挨拶
3. 各部会報告
  - 1) 学校医部会
  - 2) 産業医部会
  - 3) 福祉担当部会
  - 4) 健康教育委員会
  - 5) 広報委員会
  - 6) 生涯教育委員会
- 7) 保険問題協議会
- 8) その他
4. 閉会のことば
5. 学術講演
 

『メンタルヘルストレーニングの理論と実際』  
福島大学教育学部助教授  
白石 豊 先生
6. 受賞祝賀・懇親会

岩手郡の会員数は現在64名であり、ハガキによる出席 36名、欠席 27名、返事なし 1名。未だかつてない回収率であった。

## \* 会長挨拶 \*



高橋牧之介 会長

去る9月27日(金)に東京九段会館において、日本医師会主催の「国民医療危機突破全国医師大会」があり、岩手県医師会より5人の先生と共に参加してきた。全国より会員約1,100人が参加した。一方自民党の衆・参両院議員は約210人（代理出席も含む）が参加した。ここでは診療報酬の緊急値上げを決意した。国民医療の危機突破を訴えるスローガンとして、次の四ヶ条を掲げた。

一、全ての国民が豊かな医療を受けられる体系の構築

一、医療サービスの低下を防ぐ診療報酬の緊急

引き上げを要求する

- 一、医療従事者、特に看護婦の確保と待遇改善
- 一、医業経営安定化の早期確立

終わってから自民党、厚生省、大蔵省へ陳情団を派遣した。

昭和50年代から強化されてきた厚生省の医療費抑制策は、昭和60年代がピークであり、平成につながってきた感がある。

次に人口の高齢化がもたらした疾病構造の多様化に対し、医学、医術は日進月歩の飛躍を続けている。しかるに厚生省は医療費抑制というタガをはめ、国民の期待を裏切り、こういう政策を続ける限りわれわれは適切な医療を提供することは困難であり、こうした状態が続く限り国民医療の質的低下は目にみえており、だから

今こそ全国の医師は総力を結集して、国民医療の崩壊をくい止めなければならない。というのがこの大会の主旨であり、果たしてこの大会をやって効果があるかどうか疑問である。

というのは、この大会の様子はマスコミが全然とり上げなかった。報道していない。

全国の医師が結集して医療の危機的状況を国民に知らせる絶好の機会を失ったと思う。

ところが、日医の村瀬副会長は「マスコミに報道しなかったことは失敗ではない。日本の税制、日本の医療費値上げについて司どるのは自民党であり、自民党に知らせればこれでいいのである。そこに圧力をかけるためにやったが、その圧力が果たしてどの程度効果を上げたかはやがてわかることであり、これからは追い風をつけて後から後押ししてほしい。」という意味のことを述べていた。

また、医療費の問題について羽田会長は、「何としても今度だけは認めてもらいたい。不転の決意でのぞむつもりである。1号側（中医協の支払側）ともこうしたいということをよく話し合っ、これがよく通らないときは私の責任です。私は重大な決意をしており、このことはまだ機が熟していないので述べられないが……」その陰にはやめるということが含まれているのではないかと推測される。

診療報酬改訂は中医協で12月中頃に決まり、日医側から今まで一人の委員だけの出席であったが、今回より5人となり強い要望ができる。

現在の診療報酬体系の基本骨格は昭和33年に作られ、30年経過しても未だに変わらない基本

構想である。その間いろいろ値上げやら下げたりのあり、中医協ではこれらをふまえて十分論議してもらいたい。

日本医師会基本問題小委員会があって、そこでは1つには医者技術料をアップしてほしい。もう1つはドクターフィーとホスピタルフィー、イニシアルコスト、ランニングコストを明確にして評価できるようにしてほしい。ということが話し合われた。

また診療報酬体系の見直しについては中医協基本問題小委員会では来年の秋をメドとして、病、診、公、私の診療機能に応じた別立ての診療報酬点数を提示している。多様なメニューの中から各医療機関に自主的に選択する新体系による診療報酬を、次の、次の回から（約4年後か）やるということをはっきり決めている。

次は11月9日（土）に元厚生大臣、現自民党医療基本問題調査会長の小泉純一郎氏（神奈川県選出衆議院議員）が来県し、岩手郡より3人が出席し講演会が行われた。

医療と税調のトップにいる人で、事業税における社会保険診療報酬非課税の存続について何うと、バブル経済の崩壊により各都道府県では財源（地方税）を確保するために躍起となっている。全国知事会議でも見直しを強行に主張している。尚、事業税の非課税は医者とマスコミだけである。

日本医師会では政府税制要望としては、この非課税問題を第一にあげることになっている。小泉氏は「何としても非課税存続になるよう努力する。」といていた。

## 報告

### ◇学校医部会

高橋 孝 副会長

平成4年1月19日（日）に第9回岩手県学校保健・学校医大会において、雫石町の上原充郎

先生が「雫石中学校の成人病について」の発表があります。

岩手郡学校保健会は、平成3年10月26日（土）に盛岡市上田公民館において、前県医師会長三浦新也先生より「保健と医療と福祉のものごころ」という演題でお話しをいただき、今まで

になく約100名近くの先生方が集まり、多くの聴衆を魅了した。この講演要旨はいつれ岩手郡学校保健会発行の「研究紀要」に掲載予定です。

#### ◇産業医部会

西島康之 理事

平成3年4月12日～平成3年11月16日まで通算19回の会議が行われ、今後の予定として、平成4年2月8日～9日まで第2回東北ブロック産業医基本研修会（岩手県医師会担当）があり、産業医の更新の単位となるので認定医もっている人もぜひ受講して下さい。

平成4年度の事業計画は例年通りであり、

○産業医活動の充実と産業医の地位向上

○産業医名簿の作製及び手引きの改訂

などをあげている。

平成4年9月19日に開催される東北医師連合会第15回産業保健学会は、岩手県で開催され、これも更新の対象となりますのでぜひ参加していただきたい。詳しくはいわて医報参照のこと。

#### ◇福祉担当部会

坂井博毅 理事

6月の郡医師会総会で報告した通りですが、平成3年8月25日に雫石町営球場を中心に、岩手郡が担当した第43回県医師会親睦野球大会が行われましたが、皆様の御協力により大変な成功裡に終了しましたことに感謝します。

その他各種大会のうち、これから行われるものとして平成4年1月19日には岩手郡が担当となる第8回県医師会親睦スキー大会が、松尾村の八幡平リゾートスキー場（旧東八幡平スキー場）において開催されます。スキー愛好の方の多数の参加を希望します。

県医師会が行っている日医年金、その他の各種年金の御利用状況が今一つであり、多数の参加を切望します。

いわて医師協同組合からの連絡、資料に目を通していただきたい。

#### ◇健康教育委員会

八角正司 理事

平成3年度県民講座は、平成4年1月16日～2月13日まで葛巻町町民センターにおいて開催されます。講師は葛巻町内の先生方と岩手保健所一の渡所長、栄養士などがあたります。

#### ◇広報委員会

嶋信 理事

岩手郡医報の発行は、32号（平成3年4月）、33号（平成3年7月）、34号（平成3年9月）と3回発行した。特に34号については、県医師球大会が当岩手郡医師会の担当で行われたこともあって、地元開催地雫石町の先生方に寄稿していただき、特集号として発行することができました。誠にありがとうございました。

「おらほの先生」については、順次アットランダムにお願いしますので、よろしく御協力下さいませようパラメディカルスタッフの方々にお伝え下さい。

郡医報の発行は2～3ヶ月前後に1回の程度ですが、これからも原稿依頼に際しましては何かと御多忙のところ恐縮ですが、一筆お書きいただければ幸いです。

#### ◇生涯教育委員会

上田靖彦 副会長

10月5日県立中央病院において、病診連携の地域医療懇談会があり、症例検討が行われた。また、11月17日は県医師会館において、岩手医学会秋季総会があり、これには「老人の救急医療について」、岩手医大高次救急センターの先生方の講演と特別講演2題が予定されていますので多数参加して下さい。

生涯教育の学習時間を毎月提出するようになっていますが、控えに記録しておき、できるだけたくさんの方が総めてでも結構ですので郡医師会の方に提出していただきたい。

岩手医学会では演題についての要望がありましたら、生涯教育委員を通じて出していただきたい。

## ◇保険問題協議会

高橋 牧之介 会長

10月4日で老健法の一部が改正され、特に一部負担金の改正があり、平成4年1月1日より施行される。このことは「いわて医報11月号」に掲載されますので詳細は参照下さい。

岩手郡には平成4年2月県の医療監査が予定されています。

## ◇その他

## ○救急医療懇談会

及川 忠人 理事

10月30日盛岡地区（岩手郡、紫波郡、盛岡市の各医師会）合同救急医療懇談会があり、救命救急士の問題、ドクターカーモデル事業、救急医療のネットワークの問題が提起された。救命

救急士については救急車内で救命救急士が心マッサージなどができるもので、ドクターカーについては、県サイドでいろいろ検討されているがいまだ暗中模索の状態である。

## ○会員の移動

入会 9月1日 国本恵吉先生(滝沢中央病院へ)

10月16日 川端徳衛先生(滝沢中央病院へ)

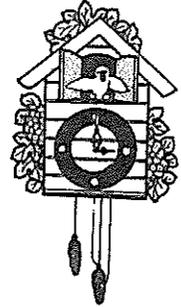
退会 10月31日 鈴木俊輔先生(八角病院より)

尚、学術講演会終了後

受賞祝賀懇親会が行われ

ました。その模様は

12ページ参照のこと。



## 学 術 講 演 会

### 『メンタルヘルストレーニングの理論と実際』



白石 豊先生

福島大学教育学部助教授 白石 豊先生

〔プロフィール〕 座長 高橋郡医会長

多忙な先生であり中々つかまらない。(連絡がとれなかった。)日本だけでなく外国へも出かけている。本年2月に行われた「スポーツ医学講習会」において、岩手県で講演していただき大変好評であり、今回再びお願いした次第である。

出身は岐阜県で、1954年生れ、1976年東京教育大体育学部卒、1979年筑波大学大学院体育研究科卒、筑波大文部技官を経て、現在は福島大学教育学部助教授である。専門はスポーツ運動学、特に身体の発達と運動を研究しており、一方体操競技のコーチであり国際審判員、日本協科学研究部員でもある。

自律訓練法を用いたイメージコントロール、或いは東洋のヨーガや禅を修行体系に応用して最近では多くのトップスポーツ選手、プロ野球選手を指導している。

#### 〔講演要旨〕

1981年11月30日筑波大助手のとき初めて盛岡の地に降りた。このときは報恩寺の12月1日から始まる7泊8日の修行に参加し、禅の修行をした。当時筑波大では加藤沢男さん（オリンピックの体操競技で金メダル8ヶをとった人）の下で、体操競技のコーチをしていた。1980年には13年振りに全日本に優勝し、翌年はエースがケガをして連覇できず2位となった。このとき先輩諸氏より前年のときとはまるで違った言葉を浴びせられた。

このときプロ野球巨人軍のV9監督川上哲治氏著「スポーツと禅」を読んで、ヨーロッパ的心理療法よりは座禅をすればよいのではないかと思ひ、駒沢大の先生より静岡のお寺か盛岡のお寺を紹介された。それでは寒い方がよかろうと盛岡をすすめられた。

心の悩みを解決したいと考え一日18時間の座禅をやったが心の悩みはますますふえてしまった。報恩寺の関老師より「無になりなさい」と教えられた。それによって毎日座ろうという習慣がついた。

現在スポーツは体操はもちろん、スキー、テニス、ゴルフをやっている。ゴルフは2年でシングルになろうと思っている。既に始めてから8ヶ月が経過したが、1ラウンド80台で回っている。

1985年になりスポーツのうち身体を動かす世界と静かな心の世界という統一した世界を求めた。この二つの世界をつなぐことができないかというとき、当時阪大名誉教授（インド哲学者）の佐古田先生のヨーガの教えを受けた。「心の制御」をこのヨーガで学び、これによって現在まで風邪をひかなくなったし、スポーツ（体操競技）をやめたあと7kg肥ったが、現在はベストウェイト63.5kgを維持できるようになった。

また一方でプロゴルファー3人のアドバイザ

ーをつとめている。ツアープロの横島由一（ジュンクラシック）、中堅プロ入野太、グローイングツアープロ古山聡の各選手。

彼らプロゴルファーは技も型もそれぞれどんぐりの背くらべであり、その中で一打一打の勝負の世界で活躍しているわけである。

このうち古山選手は集中力が高いかとか、おこりっぽいとか、戦闘的であるかなどをチェックしたら、彼は感情のコントロールが苦手であった。現在グローイングツアー第3位（ツアーシード権がとれる）にランクされている。

その他プロ野球の白井一幸選手（日本ハム）にも心の悩みを教えている。

プロゴルファー3人とジュンクラシックで初めてラウンドした。このときゴルフは心の部分が多いのに気がついて、デビット・グラハム（オーストラリアのプロゴルファー）の著書を翻訳することになった。（大修館書店より平成4年2月出版予定）その内容の一部を紹介すると次のようになる。

#### 〔I〕チャンピオンに共通する精神的資質

①セルフモチベーションの力②積極的かつ現実的な思考力③感情をコントロールする力④闘争心に燃えつつ、平静でリラックスできる力⑤高いエネルギー（気力）を保ちつつ、次の行動に備えることができる力⑥決断力⑦注意集中力⑧強固な自信⑨強い責任感

#### 〔II〕ゾーン＝IPS（Ideal Performance State）の威力

①ゾーンとは何か②スポーツ選手の4つの心理状態1）あきらめの心2）怒りの心3）びびりの心4）挑戦する心

③インターバルの4つのステージ1）心身の切り替え2）リラックスチェック3）メンタルリハーサル4）いつもの癖

#### 〔III〕ゾーンに入る具体的方法論

①アフターメーション②ヴィジュアルゼーション③メディテーション④リラクゼーション⑤コンセンタレーション⑥呼吸法⑦その他

このあとこれらの内容について、テニスプレーヤーのビデオを供覧し具体的な解説をされた。

# 平成3年度 岩手郡学校保健会研修会

日時：平成3年10月26日

場所：盛岡市上田公民館

栗石町 高橋 孝

去る10月26日15時から平成3年度岩手郡学校保健会研修会が盛岡市上田公民館で開催され、当日は前岩手県医師会長三浦新也先生の「保健と医療と福祉のものと心」と題する講演があり、都市医師会員、郡内町村教育長、学校長、養護教諭等100余名の聴講者に多大の感銘を与える格調高い内容でしたので、その要旨をお伝えします。

## 〔ご講演の概要〕

先生が県医師会長在任中に全国に先がけて実現した地域医療体制の中で、盛岡市医師会当番医制の編成、県境救急患者の搬出入システムの改善、大災害時の医療救護の全体的速応体制を挙げることができ、昭和62年救急医療功労者（団体）として厚生大臣表彰を受けられているが、その活動を支えたものは、西洋ではヒポクラテスの誓いと、東洋では薬師如来の十二大願に流れる思想との出会いであった。

しかも薬師如来大願の原典を求めて国会図書館その他に足を運び遂に駒沢大学印度哲学科でその原典と巡り合うことができた。2,000年有余も経た原典には、すでに、ヒキツリもセムシもハンセン氏病の病名も記載されており、日本国家誕生前の耶馬台国時代に社会保障のメニューをそろえ、保健・医療・福祉を一体的に見ているのは驚くべきものがある。医療は医学という学問と医術という技術と医心という心が三位一体となり、はじめて成立するものであり、あくまでも相手は人間である。しからば人間とは何かとの問いには容易に答えられない難問で

あるが、哲学、生理学、文学、宗教学等各分野からの追求にも拘らず未だ解明されない部分が多い。大阪大学医学部に初めて医哲学の講座をもたれた沢濁久敬氏の「人間とは」の定義を引用できるが、更に三浦先生自身の自己・他己一如の思想を加えられ、人間は宇宙の生命の一粒で「生命をもつ物体」である、とのお考えを披瀝された。

云うまでもなく人間一人では生きられぬ社会的存在であり、意識や意志をもち（いわゆる人格をもっている）ひとりで死んでゆく生物であり、しかもその事を知っている。自己と他己は一如であるとの解説では人間には己れが自分にもあるが他人の己れもあり、これを自己に対し他己と云うなら、自己と他己とは同じでもないが純粹に別とも云えない。自分の体と心とは自分であり乍ら自分の思うに任せず、その点では他己と大同小異である。さらに釈迦は四苦八苦を背負い生きるのが人間であると説いている。生老病死の他に愛する人との別れの苦しみ、憎らしい人と遭う苦しみ、欲しいものが手に入らぬ苦しみ、更に五感を通して入る快樂等、心の高鳴りを抑制する苦しみがそれである。これらを克服するためには、ヒポクラテスの誓い、薬師如来の十二大願、ナイチンゲール誓詞などが新たな意味をもつ時代に入っている。

西洋での医の心は神に対する約束又は誓いであり、一方東洋では自分自身の対する約束であり祈りである。「発願」というコトバがあるが、これらを考えると洋の東西を問わず医の心、(医道)は信仰のひとつと考えるとよい。医療従

事者の職業倫理と人間愛や、薬師如来の大願には前述の如く、すでに医療と福祉が謳われており、ヒポクラテスの誓いのなかみは、①神々との約束、②師に対する感謝の義務、③病人福祉に役立つ義務、④生存保護の義務、⑤自己謙遜の義務、⑥医術乱用の厳戒、⑦患者との交情は重大過失、⑧患者の守秘義務である。

一方薬師如来大願の中で重要なのは①あらゆる生活必需品を持たせ不自由をなくする、②無病息災の願い、③平和で豊かな社会の創造を願っている点で、不幸は病気からくるので不幸をなくする事業はすべて薬師如来の役割としている。また他人にプレゼントしない者も病人の一種であるとの指摘が如来の大願の中にあるとのことであった。これらの夢を果たすのには平和が基礎であると結ばれた。即ち、医療や、福祉の遂行も世の中が平和の時であり、先生が軍医当時の例を話されて、いくら医師が自分の命を捨てて人の生命を救わんとしても、戦争等で国家社会のルールが狂うと、官権の権力等により救える命も救えない事があると言われ、やはり平和でなければならないと話された。先生は命を助ける事も、又命の繁栄を助け、命の調和が大切で、大衆の願望を受け入れ、これをかなえてやり、人々が生き、生きとして栄える事を願っていると、ヒポクラテスの誓い、薬師如

来の大願にそっていくら正しく行っても、現在の医療は患者の不平不満が多く、又医療の間違い、不親切で訴訟を起こしたり、医師との間に不信感があり、医者の方の心が患者に通じない時代で、今こそ患者も混じえて、患者と共に考えてみなければならない時代であり、患者の側に立って医療の心をもう少し確立したい。このためには我々も、もう少し修行しなければならないと述べられ、最後に高橋会長から三浦先生が仏門に入られた話の質問に対して、人を救う仏門であり、人の生命を救えるあなたが、更に仏門に入るなど欲ばかりで、入らなくても、正しい医道に沿って医療にあたるように導師に諭されたとの事でした。仏門に入られた経験がおありの先生で色々な仏様についても詳しく御説明をいただきました。最後のまとめで先生が、三浦菩薩と申しておりましたが、先生こそ医師会の前述の色々のお仕事、即ち社会事業等、完全に遂行されて大願成就された三浦如来ではないかと思いました。参会の皆さんはお話しに大変感銘を受けました。帰りに雫石町の教育長も、いやーエエ話だったなあと話しておられました。来年早々にこの講演の全文が「研究紀要」に掲載されて会員の皆様に届く事としますので御期待下さい。

## /新/入/会/員/紹/介/



氏名：国本恵吉先生  
 (滝沢中央病院長)  
 年令：57才(昭和9年3月23日生)  
 出身地：盛岡市  
 出身校：岩手医科大学卒業→  
 慶応義塾大学医学部大学院  
 卒業

国本恵吉先生

診療科目：産婦人科  
 勤務時期：平成3年9月  
 趣味：医学史研究、スポーツ  
 [ひとこと]

次頁参照のこと

氏名：川端徳衛先生  
 (滝沢中央病院)  
 年令：45才(昭和21年8月4日生)  
 出身地：盛岡市  
 出身校：岩手医科大学

診療科目：産婦人科  
 勤務時期：平成3年10月  
 趣味：テニス、スキー  
 [ひとこと]

このたび岩手郡医師会に入会し、この地域の婦人科  
 検診などに協力して頑張りたいと思いますのでよろ  
 しく願います。

平成3年度 県民健康講座カリキュラム (岩手郡葛巻町会場)

回	開催年月日	場所	講座内容	時刻	担当講師	所属
1	4.1.16 (木)	葛巻町 総合 センター 葛巻町 総合 センター	開講式	13:00~13:30		あいさつ 岩手保健所長 岩手郡医師会長 葛巻町長
			長寿社会と健康 —特にお酒と健康について—	13:30~14:20	一ノ渡義巳	岩手保健所長
			老人と感染症	14:30~15:20	近藤 純造	近藤医院々長 (葛巻町)
			脳と心臓の血管障害	15:30~16:20	佐藤 郁郎	葛巻病院々長 (葛巻町)
2	4.1.23 (木)	〃	食習慣と健康	13:30~14:20	早藤 一雄	早藤医院々長 (葛巻町)
			「ガン」をめぐるって	14:30~15:20	高橋 克郎	葛巻病院副院長 (葛巻町)
			咬むことの大切さ	15:30~16:20	遠藤 憲正	遠藤歯科医院々長 (葛巻町)
3	4.2. 6 (木)	〃	口の中を清潔にすること	13.30~14:20	高橋 欣也	高橋歯科医院々長 (葛巻町)
			くすりの使い方	14:30~15:20	四倉 幹三	葛巻病院薬剤科長 (葛巻町)
			肥満について	15:30~16:20	沢口真規子	岩手保健所栄養士
4	4.2.13 (木)	〃	子どもの心の問題	13:00~13:50	岡田 信親	葛巻病院副院長 (葛巻町)
			くらしと健康	14:00~14:50	西島 康之	西島医院々長 (葛巻町)
			健康相談会	15:00~15:50	講師 全員	葛巻町医師・歯科医師 (葛巻町)
			閉講式 (修了証書授与)	16:00~16:30		

新入会員 国本恵吉先生 自己紹介

9月1日付で松誠会・滝沢中央病院院長として赴任致し、岩手郡医師会の仲間入りをさせて頂きました。

早速、編集担当の嶋先生から自己紹介を書くようにとの御命令を受けました。

赴任当初は、大学から一挙に医療の第一線の荒波に放り出された感じで、溺れないようにすることだけで精一杯でした。

まず、老人医療の実態の認識の甘さの反省を求められました。

老人保健法の改定に伴う老人訪問看護事業、老人性痴呆疾患療養病棟の設置など、厚生省が求める老人医療体制に完全に適応できる病院が果たしてどの位あるものか。老人医療の理想と現実のギャップについて考えさせられた数カ月でした。

また、小生の専門であります不妊症について、その診断・治療が高度になるに伴って、機材面でも設備の充実が必須となり、個人の病院では経営的に困難な時代となってきております。不妊症の診断、治療も大きく変わり、女性不妊に

ついては、ほぼ完全に治療が可能となり、男性不妊についても大きな進歩がみられております。北東北には、不妊の専門病院がありませんので、その面でも努力していこうと考えております。

地域医療のための献身にも、いろいろな型があるものであることを、毎日の診療で教えられる日々です。

もう一つの努力目標は、日本医学史学会岩手地方支部の結成です。今、滝沢の地は、埋蔵文化財の宝庫として、今後どのような遺跡が発掘されるか注目されております。その地に、岩手の医学史の研究の拠点を設営しようと考えております。

これらはすべて、郡医師会の諸先生方の御協力なしでは到底実現は不可能です。暖かいご支援、ご指導を頂きたいと思っております。

病院についてのご紹介は、機会もあろうかと思いますが、滝沢中央病院が確実に変わりつつあることだけをお伝えして、自己紹介に代えさせて頂きます。

## おらほの先生

## 雫石町 上原小児科医院の巻

上原小児科医院は昭和49年7月の開業です。18年目に入り、若々しかった院長も49才、間もなく50才という年齢になりました。

職員も開業時からの職員は一人だけです。開業時の院長と現在の院長を語るには、この職員の証言なくして、語ることは出来ません。一番変わったと思われることはとの問いに「趣味がふえたことではないかな？」との事。

多趣味をお持ちの院長、クレー射撃、スキー、スケート、カラオケ、トランペット、サクソ、ビデオカメラ、etc……。三度の食事よりもクレー射撃が好きだと公言される院長のその影の努力たるや、職員が皆、舌を巻くほどのうちこみようである。東西南北、よく動きまわるその姿は、あの細身の体からは到底想像できません。メモ魔でもあり電話魔でもあります。静かだなどと思うと、フォームのチェックなのだろうか、精神統一のための順序なのか、内容はさだかではないが、よく書いている姿を見ます。東北六県でクレー射撃の「岩手・上原」を知らない人は、もぐりであるとまでいわれている人物らしい。その人脈たるや“すごい”の一言である。それが全国にひろがりつつあるようです。県体、国体はいうに及ばず、1989年にはメキシコで開催されたワールドカップメキシコ大会に出場という前歴を誇る、バリバリの現役選手です。まだまだ続くのでしょうか、クレー射撃との戦いが……。

カラオケ等の趣味に関しては、職員よりも患者さん達の方がよく知っていらっしゃるようです。

「先生、きのうはよがったなっす、芸能人にもなった方がよがんすな」とおばあちゃん達からの感激と激励の言葉がとびかう、この頃の診療室の光景である。これは雫石町福祉協議会主催の年末チャリティーショーに医療団を代表してサクソの演奏をしたための会話です。電話で感激の言葉を伝えてくれるおばあちゃん達もいます。来年も楽しみにしているとの事。

医院開業時、赤ちゃんだった方々がお父さんになり、お母さんとなり院長の前にあらわれると月日の流れを思うのだろうか大変感慨ぶかげです。「親子二代お世話になります」といわれるとメガネの奥にキラリと光るものがみられます。生活の基本を忘れるなというのが口ぐせで、時々患者さんにも職員にもきびしい言葉がとぶことがあります。

身体を大切にみんなのためにがんばっていただきたいと思います。



チャリティーショーでサクソを演奏する上原先生

## 随想

## 間

雫石町 高橋 孝

過日行われた岩手県医師会の親睦野球大会のとき、嶋、上原両先生が岩手郡医報に書かれておりましたが、場内アナウンス担当の関敬一氏の歯切れのよい、時にはユーモアを交えたアナウンスにより云々というように、彼のマイクを通した声は不思議と美しく聞こえる。話し方、つまり口の開き方とか、発声の仕方等々色々勉強している事とは思いますが、どうも「間の取り方」が上手の様に思う。雫石町は町内51ヶ所に四方に向けられたスピーカーが鉄塔の上に取り、朝の7時等時報を知らせるほか、火災又は事故、迷子の捜索願い迄、急を要する場合はこの広報のスピーカーが使われている。雫石町は皆様御存知の通り、周囲は近くの山に囲まれた盆地のために、この広報がコダマして、関君がマイクを握ると昼でも夜でもとても良く聞こえるが、人によっては全く聞きとれずに困るときがある。夜中の火災の発生の場所等は知りたい気持ちにかりたてられるが、放送する人によってはコダマと一緒に話されて何を言っているか全く解らない事がある。コダマが終わってから次の話しに移れば良いのだが、もし雲仙普賢岳の様な火災が発生し、町民を急いで避難させる必要がある時等は、大きな問題になろうかと思ひ、是非もう少し放送の話し言葉について勉強してもらいたいものと思う。玉山村の小・中学生が、NHKでアナウンス教室を開いていただいたとのこと、この話し方の間のとり方等を勉強したことと思う。酒席でもこの間の取り方が大切で、高橋医師会長は話しをしながらゆっくり間を取って酒を飲む方で、一日の終わりの時刻迄飲んでもあまり酔ったところはみた事がない。私等は間も何も無く続けざまに酒をあおり短時間で

ダウンする方で話しをしながら間をとって飲むのが賢明と思う。これは間抜けた話しである。又、先日テレビで感じた事だが、医者と患者の「間」はだんだん遠くなって行くが、医者と患者との「間」は近くなっている様に思われる。昔の患家は、祖父母、父母、子供、孫と「オラホの医者」「オラエの医者」としてどんな病気でも治療に来たし、病気の事は相談に来たものだが、今はそれもだんだんうすれて来て間が遠くなって来た様に思う。一方医者同志はいろいろな会、又は情報交換等と間が近くなったし、又一方、患者が一日に数ヶ所の医者を訪ねるとも言い、患者に言った話しがすぐに、その日のうちにさえ別の医者にとどく様に医者同志も近くなって来た。患者に対する話しもよほど注意しなければならない様にも思う。書においても、墨で書かれた字よりも、残った白い空間に美を求めると言う。「大海に立つらむ波は間あらむ春に恋ふらく止む時もなく」又、「間夜」等、間の入ったロマンチックな歌、言葉もある。私共も間柄、人との間で苦しんだり、体の中でも間を愛したりで、間は我々に多くの関わりを持っているが、何でもそんなに人より良くなっても、マアマアの中間を生きて行きたいと思っている。



# 受賞祝賀・懇親会

——和田栄吉先生・八角正司先生——

学術講演会が終わったあと、同ホテル内にて、本年度表彰を受けた岩手郡内の和田栄吉先生、八角正司先生の受賞祝賀、懇親会が行われた。



平成3年秋の叙勲（平成3年11月2日発表）で、当医師会では勲五等瑞宝章に岩手町の和田栄吉先生（66才）和田栄吉先生が、へき地保健衛生の部で選ばれた。先生は岩手医学専門学校を昭和24年に卒業し、その後昭和28年まで3年間東大病理学教室で学び、同年岩手町川口で開業。昭和38年よりへき地医療に携わり、現在まで岩手町穀蔵地区の巡回診療や健康教育に尽力した功績が認められたもの。



八角正司先生（61才）は昭和32年熊本大を卒業後、岩手医大第一内科入局し、昭和34年に先代の医業を玉山八角正司先生 村好摩にて継承開業。広い村内の小中学校の学校医として永年にわたって観察し、特に心臓病の早期発見・手術治療により数多くの児童生徒を救った。学校保健衛生の功績により表彰された。

## 〔編集後記〕

○11月16日に行われた郡医師会臨時総会では、今回初めて録音テープにより原稿を書く作業を試みました。できるだけリアルに表現できるだろうかと考えてやってみましたが、これが極めて難しいことがわかりました。皆さんの御意見を伺いたいと思います。講師の白石先生のお話しは、自身が体操選手であったことから、スランプに陥ったとき何かよりどころを求めてたどりついたのが座禅、ヨーガなどを取り入れた「精神統一」「心の制御」であったという。また軽いストレッチ運動を行うことにより、自分が不可能と思われることにも挑戦しようという心がでてくる

ことがわかったというすばらしいお話しであった。こんなことを懇親会の席上でも披露してくれた。

○平成4年1月19日に行われる県医師会スキー大会の会場である八幡平リゾートスキー場は、すぐそばの八幡平リゾートホテルとの関連を強く印象づけるようになった。この大会の前後には関東方面からのスキー修学旅行生が同ホテルを利用するために、スキー大会の表彰式とか昼食会の会場を同ホテル内に確保することができず、近くの関連施設の八幡平高原荘の大広間を利用することとなった。

（M. S記）